ビジネス課題を創造的に解決するデザイン・シンキング（第17回）

デザイン思考研究所に学ぶワークショップの実際

2018.05.08

デザイン・シンキングでは、具体的にどのようなことを行うのか。それを知るために、ここではワークショップのセミナーを通じてさらに理解を深めよう。一般社団法人デザイン思考研究所（柏野尊徳・代表理事兼所長）が実施している2日間のコース「本場スタンフォード大学に学ぶ！ デザイン思考マスタークラス」に参加し、デザイン・シンキングを疑似体験してみた。

デザイン・シンキングの手法で知られる米スタンフォード大学の「d.school」のアプローチを、2日間のコースに凝縮したものだ。d.schoolではデザイン・シンキングを「共感」「問題定義」「創造」「プロトタイプ」「テスト」の5つのステップで考えている。この流れに沿って、実際に考えたり書いたりするなどワークショップの形式で実際に行動しながら学ぶのである。

2014年9月中旬に東京で開催された同コースには約14人が参加し、4～5人のチームに分かれて受講していた。午前10時から開始し、途中で昼食や休憩を挟んで午後5時まで実施する。メンバーは企業などのリーダークラスが中心。学んだ内容を自社に持ち帰り、デザイン・シンキングの推進役になる人もいる。もちろん全員が初対面であるが、コースを通じてさまざまな議論を重ねるうちに、次第に親近感が出てくるようだ。

① ワークショップの会場には各企業のリーダークラスなど約14人の参加者が集まった

② 初対面だったメンバーたちも、議論を通じて次第に打ち解けていく

③ ペアになってインタビューしている様子。相手の問題意識を探っていく

コースでは「共感」「問題定義」「創造」「プロトタイプ」「テスト」の5つのステップごとに進む。「共感」の中でもいくつかのステップに分かれている。いずれも最初に簡単な説明があり、その後にメンバーたちが議論したり紙に書いたりしながら、チームごとに考え方をまとめていくという流れだ。

ペア・インタビューで「共感」へ… 続きを読む